



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ 2018 年

5

ウェディング業界について

日本における 2017 年のウェディング関連業界の市場規模は約 2 兆 4,990 億円（前年比 98.9%）となっており、そのうち、挙式・披露宴の市場規模が 1 兆 3,960 億円（前年比 99.1%）を占めている（矢野経済研究所）。日本においては、少子高齢化や女性の独立、未婚率の上昇といった結婚に関する価値観の変化等の結果、2001 年をピークに婚姻件数が減少している。2017 年の婚姻件数は約 607,000 組（2017 年 12 月 22 日公表値）であり、前年比約 13,500 件のマイナス、今後も減少していくと予想されている（図表 1 参照）。その一方で、一組あたりの挙式披露宴平均単価は年々増加傾向にあったが、2012 年をピークに減少に転じている（図表 2、3 参照）。この背景には、少人数での会食やリゾート婚など価格訴求型の形態や、挙式を行わない「ナン婚」などが近年増加していることが挙げられる。

10

15

ウェディング業界内においては市場規模の縮小が予想される中で、近年は他業界からの参入も増加しており、大手企業だけではなく中小企業も数多く乱立している。また、披露宴の形態にもスマ婚、フォト婚、リゾート婚、オリジナルウェディング、レストランウェディング、ホテルウェディングなど様々な形態があり、今後ウェディング業界での競争はさらに激化するものと考えられる。

20

挙式・披露宴の実施会場は、「ホテル」「一般の結婚式場」「ハウスウェディング」の 3 タイプで全体の 8 割超を占める。従来、ホテルと一般の結婚式場が最も大きな割合を占めていたが、近年は、一軒家などを貸し切ってアットホームな雰囲気ゲストと楽しむ比較的高価なハウスウェディングが台頭している。図表 4 を見ると、全会場に占めるハウスウェディングの割合は、2005 年の 14.2% から 2012 年には 23.3% と順調にシェアを伸ばしていたが、その後は少しずつ下落しており、ハウスウェディングのブームは一段落しているように見える。一方、ホテルは、2005 年の 38.0% から 2017 年の 23.1% と大きく減少しており、ハウスウェディングと一般式場にシェアを奪われている。

25

本ケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 村上裕太郎監修のもと、足立康子、岩城康博、小田英毅、及び蔵重浩輔（すべて M36 期生）が公表資料および株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ人事部長 工代将章氏及び青山迎賓館支配人 濱中輝雄氏への取材に基づきよって、クラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 村上裕太郎、足立康子、岩城康博、小田英毅、蔵重浩輔（2019 年 3 月作成）